

天明七

物懷歲

表半亭

いつのまにの鶯の物言もよこしつる物言は
より梅もよこしつる柳も精もよこしつる物言
物懐の言もよこしつる物言もよこしつる物言
よこせよよこせよよこせよよこせよよこせよ
よこせよよこせよよこせよよこせよよこせよ
よこせよよこせよよこせよよこせよよこせよ
よこせよよこせよよこせよよこせよよこせよ
よこせよよこせよよこせよよこせよよこせよ
よこせよよこせよよこせよよこせよよこせよ

癸巳
うきよの隣へゆく物言

甲午
あまの梅清女の扇印をみる

乙未
小庭のうきよにゆく物言
せもの湯生をよける物言

乙未
あまの梅清女の扇印をみる

丙申 下之とを勵しあやむ世の

愛新鷲

丁酉 夕暮の詠のわよあき系

戊戌 夕暮の詠のわよあき系

己亥 春のやうに花を賞む

あの花柳色を賞む

庚子

老をめでしてふれあふ柳

辛丑

初雪の雪下り白乃と

壬寅

可成の舞臺をめぐり梅の門

癸卯

やうなをめでしてあふれ

甲辰

寫乃煙をめぐり枯る

東郊の別荘を
懐かしむ

乙巳

昔のあふれをめぐり梅

園をめぐり鹽の亭を歸す

丙午


ふれあふれをめぐり柳

丁未

自得

うらみすれあふれをめぐり

されど明和安永の歳次を預け今
 天明のより歳をうらふのあはれあはれ無
 事の垣根をいへばをいへばあはれあはれと
 柳のよけり長く梅のよけりつらね
 しつゝあるやうの鶯の色はあはれ
 けしむと我の心こそきく懐中
 ひろきおけりつらねとあはれあはれ

平安城末末亭識


天明七年丁未春正月



俳詠と連句

鶯と續松志むらゆらぬ

几董

うらみもふびく閑の戸

紫暁

春の風花黄もよしの袴着て

踏曳

奇麗こころひらきの舞

如菊

らよと盛んはやめの酒と軒の月

万容

めのよれををけのふの糸

橋僊

けの翌と入船を待上総くく 正巴

おもひ互に病室のこまを 維駒

豆厚くぬふ傍く経をよみこき連 之兮

足利世々の抱儀促はする 熊三

残月も凄涼とくく松の風 桃李

おろくつ糖の秋もよみぬる 湖虫

井糸も見麻管よく糸を流ぐ 春坡

おもひきこめや我行る志 自珍

花の雪おしほ雪も降り 菱湖

河伯くくみ考海よ宵 春香

蚕扇はる長者の家も疎打 其訂

紙中かきまふ七尺の棒 紫芳

目のくくを面被せつあやむ 松詞

虫ちききき親世寶生 芦江

大八の裏くくや重の孝 歸永

榴の夢結の幟ひくく 買山

振るりと人立りり酒の酔 夏田

おれはうんぬる白んをのあ 圃良

おもくのきけ知りにゆき煙て 芙蓉

あなを〜〜あ〜君う帯踏い 楚心

銀屏と月をち〜のいあ光 九霄

き〜のき〜き〜あ〜の萩 嘯風

よき見を古き鮎の見入り 井三

琥珀乃あ珠のき〜に〜る 仙興

笑のえあ〜〜る西のせり 東尾

はしあぬるもま乃うよは 魚三

心也よお茶漬喰ふき夕ゆし 帰耕

きたふい嘯 誰あいらん 素卿

壁代り男ゆき〜む乃陰 媒之

けんち莖を 摘み〜れ 管 志逸

み録

やつづれ門に入し年がうけ
稚舎をたてしむけり
の懐氏のしりしひも
てのちしこひは

ひしし屋よむいわすししし 柳素州 乃容

ともしは双氏うらめせし
かもしりして同門多う
すあをたれ侍りし

松竹とやもふ千代少れ初懐氏
路曳

其引

七種やおぼろ来りて摘拵ふ 熊三
暮くして月よりふるむらり 之兮
申あつかの種うる宿や菓の蕙 志逸
やう羽子の音清ある申あ 湖虫
うらむや隣子をぬてす 春坡

文音 二句

在江戸

本風や大下馬先をいれし 荷裳
うめはくや都の都の這入口 楚山

腰よりしたる毛鑊も春のきりぬ 夏田
巨燧あつておれむ猫の悪行丹 自珍
うきうきや花の目くさるるも春香
白魚や酒なごころを妹の許 菱湖
子燕の巢をさしおきあふり 其江
吹おれん鞍馬小判や春のそ 媒之
香る匂ふ三つはあやしの足のぬ 煮の
さわしや鬼の糞はなごころ 紫芳
来はをば千をさしおれぬ川辺のあ 杉月

きあふよや菜の花も咲る井子の星 橋仙
春駒の袖ひのくまり 門の松 圃良
室海苔乃凍かちけりあは魚 美雀
紅梅を垣のえりや雪の目枝 如菊

伊丹浪華書信八句

俎のくさるるあはち柳花のうせり 東尾
まろげける雪のよこれや春乃月 晴風
春の水又人のまを濁しけり 九雪
春柳や鼻のあはれぬえのらり 魚三

山里や春日ぬのうら雪のふるう久
 糸花や峠と攤うつ旅の人 甘三
 猿曳の舞おさめく侍笑ふぬ 仙興
 雛病乃友よふうらや花のすそ 歸耕
 春さるや蚕飼ふのまことわのしほり少海 米松
 万歳や酒もよめる解らうらひ 松鳥
 冬追ふや良歌のうら 女をう 亀号
 年うらうらも運も苗まこ 春の雨 南昌
 暎日や背戸の影をう 門乃口 雷夫

檀林會名録

うらひすの斜くは焼地正巴
 春面や風呂をうら高津舟 維駒
 清さるや水かけ申て下茶屋 春坡
 春風く鎧の神我吹きうら 之号
 打とけて春を歌うら柳うら 桃李
 子鹿やあふまに力に尺余り 卷毫
 花せし花拾あやうし 蜆うら 其遊
 数寄ものを織部焼とや梅屯 道立

鶯宿會名祿

水よ添へ舟は流れつ故蝶は春坡
せしよよとまの野芥の白丸松洞
盃に酒はくめや雉子の色芦江
海苔と海士津やしく似る所歸樂
下流や寐れもあらく鹿の腋買山
まぢの烏帽子とまよひ日影ふ之兮
おもてきて鶯のやみお池
まこゆとくえのみともうらり万俣

其列

まのあや志まらうとよ古程田原毛條
わのまや海よりとれて二日月佳棠
かほよのまおちち折つ口の草花月溪

指活の香より子造の酩のとりきり紫暁
うらみや厠の窓より君らう良定雅
うら駕や梅の中ゆく懐子九董

但馬文音 六句

九

桂至——梅二三梅了——より 黒人
小松揚々山の窟や春のうせ 柳水
鶯も——去つまる竹のあり——因山
いろくを紙ひくくわのふれ 其月
正月を改中て——あさり油賣 朱屋
百歳や操ふてをわくうせハ 百歩

風呂の戸をぬて居るる多勢外 几董

一か仙り

月溪

鶯——をけあは柳の影
東風をうくを半菰の間^{ヒタ} 菱湖
真暮る扇合も——をくまて 几董
あふ良のむじの舞すらをや 溪
よき風く新酒つももす濱の月 湖
江餅花つらん申縮つるの夜 董

窓の力をひきの二階に住むを
 旅の思情をこまこと詠ふを
 こころを山陰道にたのめて
 昼のすむるころの雨降るを
 心と心を梓のうらとを
 心の鬼と心をこころと
 狼乃送る眼に月ありて
 藿のむらさきと暗く閑の戸

湖 董 湖 董 湖 董 湖 董 湖 董

秋風の中風の氷はふあれや
 佛堂遷のふかき奴は男ふ
 體着て暮愛切を喰むの陰
 蒙古の船やうたひり春
 ち閉まり景色ありて井の傍
 咽のうらみのやうせなまふ
 君をて用ある者もまはなりぬ
 ちるせし猫の鏡 窓ふ

董 湖 董 湖 董 湖 董 湖 董 湖 董

去る雪の残ちゆく随つるを
 名に應んつ山門の流境
 願望くちまじも目を以て
 むこくまきこら窓の川繩
 しのの間へ蝕ハ結ゆく月の光
 花代くくくく常よ 舟
 秋や戸の小瘡のゆきまふしれ
 一歩りあつて世日こらたふよ
 湖 董 溪 董 湖 董 湖 董 湖

石菖く新の翠満くくをうる
 唐子ゆあ手を救くをきこり
 片思ひはれなきいそ死せん
 世々呪乃きくも利はれ
 散く存ちくぬ電をたくの城
 ましうふ深く何峰子智
 湖 董 溪 董 湖 董 湖 董 湖
 執筆

信中善光寺社中

梅もも咎あつらひあきぬ分 路人
堂より乃徳はうかく梅屯 柳庄
春風や鼓もしけし酒の息 呂吹
何れかの注連と雪解の岩乃場 文兆

同上田

梅の香やけあうつよき磬の音 雲帯
百歳う鳥帽子の紐と酒と入 如毛
舟を焚や小町く體腰 不言 几董

志ぬもさつりあ寫乃とけはきん外 星府

雀子や雀はまらぬ熱うもく 竹外

時あはるるやもうはや梅の月 東籬

蕙洲更

爪うく次女猫よりや志の心色 李疎

鶯のああもあやあふのいり 朶雪

彫やぬ春の風とあはれをぬ 札月

右池田社中

うらひや黄くはむす竹藪司 田福

きりり月を酒とぬ柳の歌 几董

琵琶強む平家の水と歌をう
免

神に侍る酒に盗まのき
董

凸凹と琴掛たるを竹貫子
買

あぢいお借りてまゐる女
免

いづれを望み誠む娘女中
董

けあささ志のく国の歌とさ
買

十五夜のおもひとあうつはる歌
免

いれはは苗衣より歌を誰
董

志をうくハ骨奴の軍おさもりと
買

厂帰るらん由 白雪のす糸
免

種ひらけはつとささの花の雪
董

突きさるあは鋤と陽炎
買

右

あれは柳の糸のたなれは
免

春風のことを海をたり炭俵
董

神祇

元且何の由ぞ神と云はれし神を
以てしあはるの故東郊の神の神
まのて彼晉子り六容の身はく
做し神祇志のつれを奥侍る

あけちのや侍天のま居海白

之兮

松ノ中 雞啼 別南の門 九董

万歳をえすの流し酔はん

祈る五日の雨とさるはく

非願乃田八十からぬのあ

注連 ころころ角力 始ちむ 董

新教

文覚よりかい餅あはる秋の来て

扇のあはる 一巻の経 兮

補陀落く夢のゆきも花のや

うららの蝶のころる笈弦 董

や方と浪や河内のさる鐘のんむ

巾のあと 踏る舞者の信 兮

意

白重の序扇よりのかきし文

さぬ橋のえきし引りなまよ 董

濁の又し血汐をさしつて
董

あつて胡坐をうて介つて
今

居續の出口の床几内澄り
董

苗奇楠を奪ふ袖の折れ
董

右

いみ翫て神鳴はやけに石
月溪

さしつて履をさるやを
紫曉

干鏝焼はりの葉や
几董

春詠

道立

梅ゆゑやお世へまりるさの歌賣

布子あつて暑ふ者の日
几董

柳子舞ふ陽をゆるはなれや
正巴

其二

正巴

紅梅の朽まらぬる車
の歌

舞樂の場ろくは暑る春
几董

あつて色もつら
維駒

其三

維駒

瘦麦のかかり哉よは春の氷
色せを予雀餅を好む
旅立ち小面うめとおるる月道立

洛東芭蕉庵下

帝ささる鶯のころ余きり那松宗

栗津義仲寺

醉魚の雪下ぬれり小松曳沂風

系仙

佳棠

螺壳の水澄こころ蛙うめ
ゆるくも黄昏の春
果てらつ放下の鼓をむむ
中々物をよ囊拾く
ひらりと雪降るはぬの束
狐窟ふみくしのも

紫曉

毛條

几董

咲

棠

とくましく船のむくゆく雨の晴 暁

ふき惜しきの酒の酔 董

双六も負てるまゝよおもあり 棠

和時の使者のちんを隠し 暁

川舟の紅をさす馬のおんを 董

ひもさう浪の碑く夕舟 棠

あゝと噴鐘が勝あけけ文 暁

医師くくまのれを医師嫌なり 董

舞を舞の拍子のこちのり 棠

ころりけなうくく消を蠟燭 暁

小田原の泊せきこあふ三火名 董

錠ありしこは乃とて井戸 棠

苗代くんをくんをむり 暁

茶餅賣のくは永き日 執筆

春興

浪華七句

粗公の友とて孝とて孝の心 旧國
 雪とけぬ春の空のうら 龜友
 先ひく梅の一穂 四十雀 百堂
 梅うらぐ梅餅多味窓の前 丁江
 土羔平霞とありや 東羊
 凍とけや梅提てゆ 加茂堤 蜂友
 傘一の捨とよ 乃やおほる月 石田

其二

銀鱗と白魚とさる 音乃 布舟 五京
 帰了ぬ女衣をとり 啼とほは 尾全 湖南
 鶯の友とて水とて 高きる 五來 行御
 下筆の葉とありや 在のうせ 祥祐 左京
 在るや 春葛のうら 木姿 左京
 香と巻と 姜の中と 宿の梅 サカ 里隣
 ありて 人控屋つとあり 龜哉
 むねぬの茶碗あり 梅の下 呂吟
 束ゆより ありとあり 梅柳 タシマ 桃如

正月や急乎とよる室の梅二貞
 あつよや心を焼く申竜田越来雨
 うらひよの啼もや梅り小治り百池
 梅咲やうら都の外の子圖牛
 太箸戸我も馬の飯袋百六十年杜口
 木つよて香の流るや雨の梅來之
 川りや 漸秋をそふ去り水大津驛道
 河こ田の南り低よ霞か形臥共

浪花文考二句

ちよはやくも蝶々の春の気 銀獅
 紅梅や雨追々 五日ぬ 邦洞

いせ初の花をなまらさ

梅うら吹矢うら窓の前 管鳥
 凍とや笈の音の水けり 文皮
 うらむるあらしと色ひく 楓川
 梅く來る月のちなるの清水 舞園
 妙宣やもつりあ月のうら口 五雲

卯の庵をばめて訪よせ

撮先のまろからくはるいそりゆ タシマ 朱厓

卯の庵や世中の雉のぬけけ、和且

文者 東井浅州

てら家木偶の柳をかるあまき 成美

く修比すら杯さむ窓の前寸來

乾坤依

かられ家の借地よりきよ柳月守

鶯のつらみきやむせよ夜明る 沙羅

陽をり 蠅くら木曾の驛 フシ 其韻

永日や 鳥系ありく 昼梳 楚尺

比良の雪を焼火の 湖陸

雪の名を二日おさめし 春の 南 菊二

城南林

山より下 雉子の下なる 麦 畠 之寂

やぬ入の窓板 融る 雪解 下方

梅よりふくむそあう 鳴海 宿 学海

このげろや 眼うるもあふ 孕 奥州 鹿 東臯

鯉鱗行 於延日亭

鮎末ぬやわらの川を歩わら
春坡

柳下流へ二里のちの徑
几董

酒家の春日日本の李白眺る
月溪

うゝか文字より陸より
坡

かゝるはものゝまゆ草の月
董

音子晴りむらゝの露
溪

はれもまゝを片取抱くは
坡

廊の隅の井祈るし
董

悉知り乃口憎なぬる香具賣
溪

尻衣帯の尻をこつは
坡

ちのぬる躍を習ふ月の夏
董

近く笑ゆる六角の鏡
溪

糞盆の百催る少せみえ
坡

おこりしは盆の花苓
董

むつりよと世をそとに子く酒落る

我りあぐく我田ちとり

咲満てむハ志つるふらぬみり

さうし灯のすそ泊瀬の法佛

旅の病の子を病せしる凡中

ふらり顔の盗人あふ

時知れき来る白雪く明を運

雞くくもは百軒の村

溪 坡 董 溪 坡 董 溪 坡 董

生執其を助けし勇士婿とせん

粉ひ足くく耳く紅さ吹

あわせる金の扇の夕内

萩のよをなまく音の薙下

ひのけは驚く細さる丸腰わき

角力くまはげ一疋くら居る

あまのくさきのよのまの母の親

ひらの乳鯉あゆる池

董 曉 坡 董 紫 曉 溪 董 坡 董

瑞籬く物うらり右 照あふよ 曉
 おより風の霞 以まは 董
 元船をり旅舟のや整し 坡
 海士ゆふ色のに衣なりりり 曉
 花の香とく遠ふ都のあつりり 溪
 幾春減くを 硯あふまき 執筆

春興七番

其一

正月や 炬燵のくふ乃小盃 重厚
 元日の酔 後とく来る三月 几董

其二

七種やあつてを菖のさつのは 青蘿
 あく草をり嵐の志もあまきりり 几董

其三

鶯の声も 詠は日あふ 二柳
 うらりや日の空のほの雪景 几董

其四

火とゆの 神のゆは柳 曉臺
 犬平迹く庭鳥よる柳の形 几董

〇七毛

其五

芥川も薫は昔蒲の古根也蝶夢
白鶴の来去一と片一母芥の丸
几董

其六

春雨や路の滴うは木偶また
春雨や造化もは草の塵
几董

其七

志のあや雉子たち西の磯の波
三井寺の鐘も暮るる雉子の
几董

大尾

洛小橋仙堂梓り



阪
永十ヲ子十二日
ワタヤミヤノ下
ヨリ
格令了

